

## 3. 委員会活動

---

### 3.1 教務委員会

委員長：西村真実子 教授

委員：多久和教授、垣花准教授、阿部准教授、谷本准教授、彦准教授、中田弘子講師、米田講師、岩城講師、森田助教、入道教務学生課長、山岸専門員

開催頻度：定例会議（原則第3木曜日）計11回（うち臨時教務委員会1回を含む）

活動内容：

教務に関する以下の事項の審議を行った。

1. 成績判定および先修要件・卒業要件の判定
2. 既習得単位の認定
3. 随時試験・定期試験時間割・試験監督の決定、平成26年度の時間割作成
4. 非常勤講師等の任用
5. 臨床教授等付与制度の運用に関する検討
6. 看護学実習の再履修に関する学生便覧への掲載
7. 2014年度フィールド実習の方法(カウンターパートナー型、民泊型)に関する検討
8. 2014年度実施の新カリキュラム(Human Health Care 科目の新設等)に関する検討・確認
9. 卒業研究に関する事項(受け持ち学生数決定・オリエンテーション・発表会運営等の学生への研究指導以外の事項)
10. FD部会主催・教務委員会共催「批判的思考力の育成と評価」の研修会
11. 教務委員会ガイダンス(自学自習を促進するための工夫の検討等)
12. フィールド実習部会に関すること
13. 看護学実習部会に関すること
14. 石川コンソーシアムのシティカレッジへの科目の提供および本学学生の受講科目の成績の確認
15. その他教務に関すること(オムニバス科目の担当者、国際看護演習のシラバス、成績通知書の表記等)

#### 3.1.1 フィールド実習専門部会

部会長：垣花渉 准教授

部会員：大木教授、川村講師、曾山助教、中田助手、中嶋助手

開催頻度：随時

活動内容：

フィールド実習に関する専門的事項の審議及び実習の円滑な運営を図った。

1. 平成25年度フィールド実習要項の作成
2. 平成25年度フィールド実習オリエンテーションの実施（学生用・教員用）
3. 学生の実習計画案に基づく調整、担当関連一覧表の作成
4. フィールド実習経過報告会を学生主体で行うための事前準備等支援
5. フィールド実習報告会を学生主体で行うための事前準備等支援

6. フィールド実習のFD授業評価の実施、集約及び報告
7. フィールド実習の授業評価（学生用）の実施、集約及び報告
8. フィールド実習担当教員へのアンケート調査の実施、集約及び報告
9. フィールド実習を通じた社会人基礎力の成長の評価の実施、集約及び報告
10. フィールド実習自己評価票（学生用）の集約
11. フィールド実習施設に関する情報ファイルの作成
12. フィールド実習報告集（平成24年度）の作成
13. 平成25年度フィールド実習体制の反省
14. 平成26年度フィールド実習要項の検討及び改訂

### 3.1.2 看護学実習専門部会

部会長：谷本千恵 准教授

部会員：堅田講師、田村助教、曾山助教、山田助教、寺井助手、金子助手、井上助手

開催頻度：定例月1回（原則第1木曜日、必要時メール会議、IV段階実習中は不定期開催）

活動内容：

各看護学実習を円滑に遂行するために共通する専門的事項の審議および実施

1. 新年度ガイダンスにおける実習オリエンテーションの実施（4年生）
2. 実習施設との連絡・調整
3. 第IV段階実習に関する業務（実習要項の編集、ローテーションおよび学生配置表の作成、全体オリエンテーションの事前準備・運営）
4. 学生の実習状況に関する情報交換および要支援学生に対する支援方法の検討
5. インフルエンザ等の感染症流行に関わる予防対策および情報交換
6. 看護学実習中のヒヤリ・ハット記録の集計と分析
7. 実習記録の学生への返却
8. 実習部会備品の補充・管理
9. 同意書、誓約書等の保管・管理
10. ユニフォームに関する業者との調整および学生への提供支援
11. 平成26年度臨地実習スケジュールの策定
12. 実習中の携帯電話使用状況に関する調査の実施

### 3.2 学生委員会

委員長：浅見洋 教授（学生部長）

委員：牧野教授、今井教授、武山教授、織田准教授、垣花准教授、彦准教授、堅田講師、川村講師、田甫講師、中田弘子講師、入道教務学生課長

事務局：井ノ山事務員

開催頻度：定例月1回（原則 第3木曜日）

活動内容：

1. 学生委員会の開催(12回)、臨時学生委員会1回

審議事項および実施事項：

- ・ 平成 25 年度新入生ガイダンス・学生ガイダンスの準備
- ・ 平成 25 年度新入生ガイダンス・学生ガイダンスの実施
- ・ 平成 25 年度ガイダンス（6 月、10 月 2 回）の実施
- ・ オープンキャンパス協力
- ・ 学生セミナー開催（2 回/年）
- ・ 自治会活動及びサークル活動の支援
- ・ 後援会助成金申請および実施報告に関する学生への周知
- ・ 奨学金等、学生支援に関する周知、奨学金申請者の面接
- ・ 大学祭実施の支援
- ・ 同窓会総会開催の支援
- ・ クラスアワー開催の支援
  - 修学困難、病気等の学生の把握と対応（必要時担任との連携）
- ・ 平成 26 年度学生便覧の改訂と作成、改変
- ・ 学内緊急連絡メール活用
- ・ 学生サークルの支援
- ・ 被災地学生ボランティア活動への支援
- ・ 学生の動向把握と休学者との面接
- ・ 学生のニーズ調査に基づいて学長等との懇談会を実施
- ・ その他、学生指導と修学支援

## 2. 学生の健康支援

- ・ 定期健康診断および健康指導（保健室担当）の援助
  - B 型肝炎ワクチン等予防接種の指導
- ・ 罹病学生の把握と保健指導
- ・ 学生相談専門部会との情報交換

## 3. 学生の進路支援

- ・ 就職活動の支援
- ・ 国試対策への支援
- ・ 進路アドバイザー部会との情報交換
- ・ 就職・進学等の状況把握

### 3.2.1 学生相談専門部会

部会長：浅見洋 教授（学生部長）

部会員：武山教授、谷本准教授、井上助手、奥村保健室担当、入道教務学生課長

開催頻度：定例月1回

活動内容：

1. 学生相談部会の開催（6回）
2. 学生相談、およびカウンセリングの実施
  - カウンセラーの浅見教授、武山教授、谷本准教授、井上助手、奥村保健室担当が主に対応
3. こころの健康調査（MMPI）の実施及びフィードバック
4. こころの健康調査の実施

- 入学への積極性、入学に際しての不安など—
- 5. 修学困難、病気等の学生の把握と対応
- 6. 復学および休学意思の確認  
休学・退学者との面談と指導
- 7. 学生の健康支援  
定期健康診断および健康指導（奥村保健室担当）

### 3.2.2 進路支援専門部会

部会長：牧野智恵 教授

部会員：山岸准教授、塚田准教授、田甫講師、東助教

開催頻度：部会開催5回（不定期）、メール会議5回

活動内容：

施設及び企業からの求人・アンケート対応、及び学生への進路相談および看護師・保健師国家資格取得支援活動

#### 1. 学生の進路支援

- 1) 学生の進路相談・面接の実施および生活指導
- 2) 進学者（養護教諭）受験対策としての小論文添削指導
- 3) 採用試験に向けての履歴書作成支援
- 4) 就職内定・進学状況の把握、および大学への報告
- 5) 3年次生への国家試験および保健師採用試験準備の支援
- 6) 病院見学および就職・進学試験情報の学生への周知
- 7) 進路情報コーナーの整備
- 8) 就職情報交換会に出席
- 9) 昨年度国家試験不首尾者への支援

#### 2. 看護師・保健師国家資格取得支援

- 1) 国試模試受験に対する教室確保・環境整備
- 2) 業者模擬試験に関わる支援、問題の受領と担当学生への引渡、模試結果の返却と学習指導
- 3) 業者による国家試験対策無料ガイダンス実施に対する支援（7月、3月開催）
- 4) 成績不良者への生活・学習指導（進路支援部会と卒業研究担当者との連携）
- 5) 学内の補習講義の企画・実施に対する支援
- 6) 国試受験激励会開催
- 7) 国試受験日の交通手段確保支援および当日の学生状況把握
- 8) 国家試験結果の確認および結果後のフォロー
- 9) 第100回保健師、第103回看護師国家試験問題の教員への開示
- 10) 昨年度国家試験不首尾者への支援（4回/年実施）

#### 3. 国家試験受験手続き（願書記入、受験票配布）および免許申請に対する指導

#### 4. 施設および企業への対応

- 1) 求人募集施設・関係者との面談および情報収集
- 2) 進路就職調査への対応

- 3) 臨時・嘱託職員募集に対する対応
- 5. 次年度進路の手引きの改訂

### 3.3 図書館運営委員会

委員長：丸岡直子 教授（附属図書館長）

委員：丸岡教授、松原教授、中田准教授、彦准教授、堅田講師、久米臨時講師、  
青山総務課長

事務局：山本主幹

開催頻度：定例月 1 回（第 4 木曜日） 計 4 回開催

#### 1. 附属図書館規程の改正

- ・貸出冊数を 5 冊から 10 冊に変更したこと、土曜日の開館時間を変更したことにもなつて、附属図書館の規程を改定した。

#### 2. 図書等整備状況

- ・4 月、8 月に教職員の推薦による図書 1,153 冊、視聴覚資料 165 点を選定し整理した。
- ・学生から先輩、後輩に薦めたい図書を募集し、30 冊の希望図書を購入整備した。

#### 3. 図書館中期目標・長期計画

- ・「図書整備計画」に沿って計画的に図書・視聴覚資料を整備することについて検討。
- ・電子ジャーナル、データベース環境の確保について検討。

#### 4. 企画展示

- ・「災害看護展」「第 1 回教員推薦図書展」「教職員推薦 わたしの 3 冊」「日本のナイチンゲール展」等、計 7 回の展示を実施した。

#### 5. リユース図書について

- ・複本として所蔵する図書をリサイクルするため、夏のオープンキャンパス（7 月）、学園祭（10 月）に図書のリユースを実施した。

7 月：80 人 178 冊 一般 3 人 6 冊（計 83 人 184 冊） 10 月：42 人 115 冊

総計 125 人 299 冊

#### 6. わく・ワーク（work）体験事業について

- ・平成 25 年度から、かほく市立高松中学校生徒 3 名を受け入れて、2 日間図書の装備、文献複写業務等の図書館業務を体験する「わくワーク（work）体験」事業を行った。

#### 7. 館内レイアウトの変更について

- ・館内図書配架場所のリニューアルを実施

2 階に配架してあった図書 369～399 を 1 階へ移動。閲覧室の配架図書を一般教養、看護学、医学の資料群にまとめる作業を、8 月 12 日（月）～16 日（金）の 5 日間、学生ボランティア 5 名とともにいった。

#### 8. 9 月の開館時間の変更について

- ・夏季休業期間中に実施される「基礎看護学実習Ⅱ」に合わせて、図書館の開館時間を午後 7 時まで開館、秋分の日を臨時開館した。

#### 9. 「図書館特別利用証」のデザインについて

- ・卒業生、学外利用者に発行する「図書館特別利用証」のデザインを変更し、平成 26 年度から新しい利用者カードを使用することとした。
10. 学生アンケートについて
- ・図書館のサービス向上、運営改善のためアンケートを実施した。その内容を検討した結果、文献複写依頼が図書館システムを使ってできるMyCARINの使い方、当館に所蔵していない図書が他の図書館から借りることができる等の図書館サービスについて、周知を図るための広報を展開することにした。
  - ・図書館 2 階の会議室の利用促進を図るため愛称を募集し「がんばROOM」に決定した。
11. 雑誌の貸出しについて
- ・平成 25 年 4 月から雑誌のバーコード貼付作業を開始し、開架分約 22,000 冊のデータ登録が完了したので、平成 26 年 4 月から学部生は 3 冊、2 日間、院生、教職員は 5 冊、2 日間雑誌の貸出しを実施することに決定した。
12. JAIRO Cloud について
- ・平成 25 年 4 月 1 日の学位規則改正により、博士論文を機関リポジトリによる公表が義務付けられたことを機会に、当大学でもリポジトリの構築が急務となった。平成 26 年度、国立情報学研究所が運用する「JAIRO Cloud」への参加を前提に作業を開始することに決定した。
13. 日曜日開館について
- ・学生から要望があった、日曜日開館について検討した。図書館職員 3 名で日曜日開館を実施することは、日常業務に支障が生じること、すでに、図書館サービス向上を図って土曜日の開館時間延長や貸出し冊数を 10 冊にするなど図書館サービスの拡充を行ってきた。しかし、学生の要望を真摯に受け止め、試行的に第IV段階実習が始まる 10 月から 12 月の 1、2 クール、3、4 クールの間の日曜日、午後 1 時から 5 時まで、学生、院生のみ利用に限定して日曜日開館を試行することとした。なお、カウンター業務はアルバイトで対応するため、図書の貸出、返却のみとする。
14. 平成 26 年度図書館行事企画（案）について
- ・本学のリポジトリ構築のため、国立情報学研究所が運用する「JAIRO Cloud」に参加するため、平成 26 年度中に参加申請を行う予定。
  - ・図書館中・長期計画の策定を行う。
  - ・企画展示「闘病記」展、「看護の歴史」展を夏・秋のオープンキャンパスに実施する予定。

### 3.3.1 石川看護雑誌編集専門部会

部会長：多久和典子 教授

委員：松原教授、丸岡教授、山岸准教授、織田准教授、北山准教授、森田助教、大西助手

事務局：山本主幹

開催頻度：随時

活動内容：

1. 本年度から査読システムを一部電子化した。その結果、紙媒体による査読に比べて大幅に省力化できることを確認した。なお、投稿論文・修正論文は、従来通り紙媒体で3部を提出することとしている。
2. 石川看護雑誌第11巻を2014年3月に発行した。
3. 第10巻に引き続き、編集後記において、大学院における研究成果の論文としての公表を呼びかけた。なお、昨年度から本学大学院生に石川看護雑誌を配布し、周知を徹底している。

### 3.4 研究推進委員会

委員長：丸岡直子 教授（附属図書館帳）

委員：長谷川教授、松原教授、阿部准教授、岩城講師、堅田講師、山本主幹

開催頻度：定例月1回（第4木曜日）の11回開催

活動内容：

#### 1. 学内研究助成の募集と決定

- 1) 前年度に作成した平成25年度学内研究助成募集要項により、研究助成の募集を行い、学内研究助成審査部会の審査結果をうけて委員会で採択案を決定した。その採択案を教育研究審議会での審議を付託した。今年度は二次募集を行った。
- 2) 平成25年度学内研究助成課題のホームページ掲載

#### \*平成25年度の学内助成による研究

研究代表者	課 題 名
織 田 初 江	能登半島の中山間地域の限界集落で暮らす人々の健康観と死生観
森 田 聖 子	認知症をもつ高齢糖尿病患者のセルフケアの実態に関する研究
丸 岡 直 子	PNS (Partnership Nursing System) 導入における看護師のパートナーシップマインド育成に関する基礎的研究
大 木 秀 一	国内における生殖補助医療の動向と予後に関する包括的疫学研究
彦 聖 美	北陸3県（福井県・石川県・富山県）における妻や親を介護する男性介護者の介護状況の実態調査
金 子 紀 子	ソーシャルキャピタル概念とこれまでの母子保健活動との関連に関する文献検討
中 田 隆 博	有機カチオントランスポーターOCT2の局在に関する研究
谷 本 千 恵	過疎地域における精神障がい者の地域生活支援システムの現状と課題に関する研究

浅見 洋	ドイツの高齢者介護施設におけるターミナルケアについて —事前指定の現在—
吉田 和枝	20代女性の出産意欲の現状と妊娠・出産についての学習プログラム 開発に向けての基礎的な実態調査研究
長谷川 昇	オーダーメイド健康増進プロモーションシステムの実践効果の検証
高山 成子	絶対安静治療を余儀なくされる認知症高齢者の看護方法の構築 —大腿骨転子部骨折牽引及び人工透析を受ける認知症高齢者の 看護経験から—
多久 和典子	血管バリア機能を制御する血中脂質メディエーターの機能解析
井上 智可	石川県の訪問看護ステーションにおける精神疾患をもつ療養者の利用 に関する実態調査
中嶋 知世	石川県に住む外国人の実態調査 —健康問題を中心とした量的な現状把握—
田村 幸恵	看護学実習における大学教員の連携行動
久米 真代	がん終末期にある中等度から重度の認知症高齢者の身体的苦痛に対する 看護方法の有効性の検証
牧野 智恵	化学療法中の造血管腫瘍患者に緑茶を用いた口腔ケアの効果
西村 真実子	乳児期からの子ども虐待予防の支援活動 「子育てルーム “めばえ”」の評価
中田 弘子	看護師が対応困難感を抱く事例検討への効果的な支援方法

### 3) 平成26年度学内研究助成募集要項の作成と募集

平成26年度の募集は、平成25年12月28日～平成25年2月28日に行い、研究A：1件、研究B：14件、海外研究発表旅費：2件の応募があり、学内研究助成審査部会の審査結果をうけて委員会で採択案を決定した。その採択案を教育研究審議会での審議を付託することとした。なお、学内研究助成研究費に残額が生じたため、二次募集をおこなうこととし、募集要項案を決定した。

## 2. 教育・研究推進に係るフォーラム等の開催

### 1) 研究フォーラム

開催日時：平成25年6月26日（水）16:20～17:30 参加者：24名

場所：管理棟1階 地域ケア総合センター研修室

研究フォーラムのテーマおよび講師：

「臨床における看護研究の支援」 川村みどり講師（精神看護学）

「長期臥床患者の手指の清潔ケアに関する研究

—片麻痺患者の麻痺手の洗浄に微酸性電水を併用することの衛生効果

中田弘子講師（基礎看護学）

### 2) 研究サポート集会

既に科研費を獲得している研究者が、科研費を獲得するために必要な準備等を若手研究者に向けて解説すると共に、科研費助成金申請の手続きについて周知した。今年度は2回開催した。



対象者：教員

開催日時：1回目；平成25年7月30日（火）16:00～16:45 参加者：28名

2回目；平成25年9月20日（金）16:00～17:15 参加者：32名

場 所：管理棟1階 地域ケア総合センター研修室

内容および講師：

1回目：科研費獲得までの道のり 彦聖美准教授

書籍に学ぶ若手Bの応募について 寺井梨恵子助手

2回目：科研申請の事務手続き等 松田敏広主幹

科研費申請における留意事項 長谷川昇教授

### 3) ワシントン大学における DNP 教育の視察報告

開催日時：平成25年7月30日（火）16:50～17:20 参加者：32名

内容：UW における高度実践看護師教育の現状と課題（西村真実子教授）

高度実践のための病態生理学・薬理学の教育（塚田久恵准教授）

高度実践のための Physical Assessment 教育（岩城直子講師）

### 4) 平成24年度学内研究助成成果報告会の開催

12課題の発表があった。

開催日時：平成25年9月17日（火）13:00～15:00 参加者：38名

平成25年9月18日（水）13:00～14:20 参加者：43名

### 5) 特別講演会の開催

開催日時：平成26年3月17日（月）13:00～15:00 参加者：54名

演題・講師

「トランスレーショナルリサーチ」

東京大学大学院医学系研究科

老年看護学／創傷看護学分野 真田弘美教授

## 3.4.1 学内研究助成審査部会

部会長：丸岡直子 教授

委員：浅見教授、小林教授、今井教授、高山教授、西村教授、林教授、山岸准教授、  
織田准教授、北山准教授

開催頻度：3回開催

活動内容：

1. 平成25年度学内研究助成申請の審査を行い、採択案を決定した。研究推進委員会に採択案の審議を付託した。
2. 平成26年度学内研究助成（1次募集）申請の審査を行い、採択案を決定した。研究推進委員会に採択案の審議を付託した。

### 3.5 情報システム委員会

委員長：小林宏光 教授

委員：中田准教授、木森助教、大江助教、寺井助手、松田主幹

開催頻度：随時

活動内容：

本委員会は本学情報システムの管理・運営を担当している。また、毎月1回、県立大学と合同で情報システム管理に関する会議があり、委員長および事務局担当者が参加している。

### 3.6 地域ケア総合センター推進協議会

委員長：石垣和子 教授（学長）

委員：中村事務局長、川島教授（附属地域ケア総合センター長）、長谷川教授、西村教授、村井教授、垣花准教授、塚田准教授、菊池修一（県健康福祉部次長・外部委員）  
立浦紀代子（羽咋市社会福祉協議会会長・外部委員）  
種本博（石川県かほく農業協同組合代表専務理事・外部委員）  
野口美和子（沖縄県立看護大学元学長・外部委員）  
山田雅子（聖路加看護大学看護実践開発研究センター長・外部委員）  
吉田忠司（吉田司株式会社代表取締役社長・外部委員）

開催頻度：年1～2回 平成25年度は1回開催

活動内容：平成26年3月7日（金）委員会開催

主な内容

平成25年度事業報告

平成26年度事業計画説明

平成25年度に新設された看護キャリアセンターに関する説明

手浴ベースンの商品化についての経過報告

意見交換

地域ケア総合センター活動の肯定的な評価

事業一つ一つの質疑応答

県や自治体との連携の重要性

行政や看護現場だけでは進まないことを大学が支援することへの期待 等

### 3.7 地域ケア総合センター運営委員会

委員長：川島和代 教授（附属地域ケア総合センター長）

委員：松原教授、長谷川教授、吉田教授、牧野教授、林教授、入道教務学生課長

事務局：砂山専門員

開催頻度：隔月1回（原則、第4木曜日） 計5回開催

活動内容：

## 1. 平成25年度地域ケア総合センター関連委員会・専門部会の活動概要

- 1) 地域ケア総合センターの運営体制を変更して2年目を迎え、「地域ケア総合センター運営委員会」ならびに3専門部会（①国際貢献専門部会、②地域連携・貢献専門部会、③人材育成専門部会）の体制で運営に当たった。また、センター事業の企画に外部委員の意見を反映させ、事業評価を頂くために地域ケア総合センター推進協議会を開催した。事業内容はシンプルとなり、各部会に重点的な取り組みを1～2に絞って運営された。
- 2) センター運営委員会ならびに各部会は2ヶ月に1回程度の委員会ないしは部会を開催し、事業の実施・評価を行ってきた。
- 3) 平成25年度の調査研究事業の報告会は、学内研究助成による研究報告とともに実施した。
- 4) かほく市との包括的連携協定に関する協議会にはセンター推進協議会の学内委員が担当することとした。平成25年度は2回の協議会が開催された。その中で、かほく市から提案のあった事業「ひとり暮らし高齢者への訪問活動」が学生の授業として取り入れることが出来た。
- 5) 本学の教員の開発した手浴ベースンを地域ケア総合センターの予算を活用して商品化することが出来た。

## 2. 運営委員会の活動

各専門部会の報告を元に、全体のセンター事業の進捗状況を把握し、提示された課題について検討を行った。課題として、センター事業への予算配分、大学公開フォーラムの準備、外部の委託事業の受入れに関する方針、平成26年度事業の企画の立案・検討を行った。また、本学の新たな附属施設「看護キャリア支援センター」との棲み分けについて議論された。現時点では、大学発信のキャリアアップの支援は、「看護キャリア支援センター」が、地域の行政や医療機関や介護保険施設等の専門職（福祉職等も含む）からのニーズに応えるのは「地域ケア総合センター」との位置づけとなった。

## 3. その他の取り組み事業

### 1) 調査研究事業の継続

大学の戦略的な調査研究事業として「看護師の退職と再就業に関するもの」と「訪問看護推進のための方略」の2課題が研究継続となった。

### 2) かほく市との包括的連携協定にもとづく事業について

本学とかほく市の双方から事業提案を行い窓口担当者が事業の検討を行いながら、実施した。

### 3.7.1 国際貢献専門部会

部会長：川島和代 教授（附属地域ケア総合センター長）

部会員：山岸准教授、谷本准教授、彦准教授、久米臨時講師

事務局：砂山専門員

開催頻度：隔月1回（原則第1木曜日） 計5回開催

活動内容：

JICA 北陸の委託研修事業の実施ならびに国際交流委員会等が実施する公開講演会の開催支援を行った。

1. 日系研修「高齢者福祉におけるケアシステムと人材育成コース」の実施  
 研修期間：平成25年7月16日～8月9日  
 研修員数：2名（パラグアイ2名）  
 研修場所：石川県立看護大学、羽咋市社会福祉協議会 他
2. 青年研修「母子保健実施管理コース」の実施  
 研修期間：平成25年11月28日～12月10日  
 研修員：13名（中央アジアコーカサス地方5カ国混成チーム）、医師、助産師、看護師、その他  
 研修場所：石川県立看護大学、かほく市、石川県立中央病院 他

### 3.7.2 地域連携・貢献専門部会

部会長：長谷川昇 教授

部会員：吉田教授、垣花准教授、織田准教授、北山准教授、曾根助教

事務局：砂山専門員

開催頻度：月1回（原則第2木曜日） 計5回開催

活動内容：

生涯学習講座の平成25年度大学公開フォーラム「笑いと医療～笑う看護に福来る～」事業の企画・運営を実施した。

1. オープンキャンパス2日目の10月27日（日）午後、有料講座（500円）として実施した。2部構成とし、第1部「お達者落語会」では、真打で医師の春雨や落雷師匠（安部正之先生）による江戸落語「目黒のさんま」、続いて「いきいき医学講話」では「笑いと免疫力・・・そして健康」と題した健康講話を実施した。第2部では、笑いヨガを研究している本学教員、コーディネータ教員と安部先生が壇上に上がり、フロアからの質問に答えながら楽しいひと時を過ごした。
2. かほく市民をはじめ213名の参加があった。参加者アンケート（回収率52.5%）では、「早速実践したい」との意見も多く見受けられたことから、本企画は満足度が高く、好評であったと推察された。生涯学習講座の希望テーマ調査では、健康関連の希望が多く、フォーラム内容の検討に役立った。大学祭との共同開催についても、大学に入る良い機会となり、満足度が高い様子が伺えた。
3. 平成26年度の公開フォーラムの内容について検討を行った結果、来年度の委員会に企画・運営を任せることとなった。

### 3.7.3 人材育成専門部会

部会長：林一美 教授

部会員：牧野教授、塚田准教授、田甫講師、米田講師、川村講師

事務局：砂山専門員

開催頻度：月1回（原則第2木曜日） 計4回開催

活動内容：

1. 人材育成専門部会の活動
  - 1) 専門職向け研修「放射線に関する基礎知識と看護実践」（北陸がんプロ共催）について金

沢大学名誉教授田崎和江氏と北里大学病院の放射線看護がん看護専門看護師久米恵江氏をお招きして研修会を開催した。第1部では、田崎氏に「放射線に関する基礎知識と看護実践」というタイトルで、実際の放射線測定器を用いた講義を頂いた。また、第2部では、久米氏には「がん放射線治療ができること、そこで看護がサポートできること」をテーマに講義を頂いた。放射線の功罪について考える貴重な機会を得た。参加者は85名であった。

- 2) 本学の教員主催の研究会や事例検討会等9講座が開講され、各教員の裁量によって運営された。CNS の誕生とともにそれぞれの専門分野の事例検討会が活発に開催されている。各研修会には一律4万円程度の支援を行なっている。
- 3) 医療機関や職能団体、行政等からの講義・講演の依頼に対して本学の教員の派遣回数は156件にのぼった。
- 4) 看護研究等の指導等に関する講師派遣は、12人の教員が11病院に対して延べ55件にのぼった。

## 2. 石川県からの委託事業、協力事業の実施

- 1) 県医療対策課からの委託事業として石川県看護教員養成講習会（8ヶ月講習）を3年間にわたり開催し、無事終了した。今年度は北陸3県を中心に27名の修了生を送り出した。本年度で教員養成講習会は一旦、休止することとなった。
- 2) 県長寿社会課並びに石川県社会福祉協議会福祉総合研修センター事業への協力事業として介護職員等が実施する喀痰吸引等の研修事業を行った。

「不特定多数の者」に喀痰吸引等を実施できるコースを前期・後期に開催し、指導看護師80名を育成し、介護職員の受講者計300名が基本研修等を修了した。また、「特定の者」に対して喀痰吸引等を実施できるコースに50名余り受講し修了した。

## 3.8 国際交流委員会

委員長：吉田和枝 教授

委員：阿部准教授、中田隆博准教授、岩城講師、中田弘子講師、曾山助教、大江助教

事務局：砂山専門員

開催頻度：定例会1回（第1月曜日）および臨時開催、計10回開催

場所：教育研究棟会議室

活動内容：

1. 全学年の学生対象に国際サテライトの利用状況および英語学習についてのアンケート調査

学内施設の各部屋の利用状況を調査する作業に伴い、管理棟1階の国際サテライトの利用状況について全学の学生対象にアンケート調査を行った。調査票は342配布で回答の回収率は88%であった。国際サテライトの場の利用の再考を行った。国際的に活動できる能力を積極的に身につけたい学生は17%であり、身につけたいが積極的ではないが68%であった。英会話を授業以外で学習しているは4%にとどまり、全体的に国際的な感覚を身につけようとする学生の意欲は低いと感じられ、今後、グローバル人材の育成にあたり対策の必要がある。

## 2. 夏期アメリカ看護研修の実施

第9回夏期アメリカ看護研修は、8月25日～9月7日の14日間、引率教員1名・学生17名が参加して米国シアトルで実施された。Washington 大学で看護師の講義を受講、同大学のメディカルセンター視察はじめ小児医療施設やホスピスの視察を行い、また生活に必要な英会話レッスンを LWIT(Lake Washington Instituten of Technology)にて計7回受けた。また、マウントレーニアでの野外活動やマイクロソフトビジターセンター等も訪問した。

## 3. 来年度夏期アメリカ看護研修の計画立案

来年度のアメリカ看護研修の立案を行った。昨年度より引き続いて中期計画の実施として研修内容の充実および学生が参加しやすいように適切な価格とするために競争原理を働かせ数社から見積もりを取り検討を行った。教育研究審議会に報告し、最終的にシアトルの計画案に決定された。来年度の研修学生の募集にかかる広報に向けての準備を行った。

## 4. 夏期アメリカ看護研修の研修担当教員（引率教員）に関する内規改定について、来年度からは夏期アメリカ看護研修の研修担当教員は同時に国際看護演習の担当教員となることを委員会が提案し、教育研究審議会で承認された。

### 3.9 広報委員会

委員長：今井美和 教授

委員：石垣教授、高山教授、浅見教授、丸岡教授、川島教授、西村教授、曾根助教、山田助教、舟田臨時助手、中村事務局長

事務局：岩谷主事

開催頻度：11回

活動内容：

#### 1. オープンキャンパス

・第14回 平成25年度 オープンキャンパス2013の企画立案・準備・実施

夏：開催日時 平成25年7月20日（土）9：45～14：30 参加人数 約400名

秋：開催日時 平成25年10月27日（日）9：30～12：00 参加人数 約180名

・第15回 平成26年度 オープンキャンパスの検討

日程 夏 平成26年7月19日（土）、秋 10月25日（土）午前 開催予定

#### 2. キャンパスネット IPNU（大学新聞）

・第24巻 2013.10の企画立案・編集・発行

・第25巻 2014.3の企画立案・編集・発行

#### 3. ホームページ

・ホームページの運用

・英文ホームページの検討

#### 4. 大学案内（学部・大学院）

・2014（学部・大学院）の企画立案・編集・発行

・2015（学部・大学院）の企画立案・編集

#### 5. 大学コンソーシアム石川

- ・情報発信専門部会 第1回 平成25年5月13日（月） 第2回 平成25年12月18日（水）  
     ※情報発信戦略ワーキンググループ 第1回 平成25年7月30日（火）  
   第2回 平成25年9月10日（火） 第3回 平成25年11月19日（火）
  - ・出張オープンキャンパス担当講師の調整と依頼 2013年度、2014年度
  - ・石川の大学ガイドブックの編集 2013年度版、2014年度版
  - ・石川県高大連携セミナー2013の参加教員を入学試験委員会に依頼
6. 看護への道（石川県健康福祉部医療対策課）等の原稿作成
  7. 学生広報委員活動のサポート
    - (ア) オープンキャンパス
    - (イ) ナース・ステーション（医心発行）
    - (ウ) 石川大学のガイドブック
  8. 大学名入りグッズの検討

### 3.10 入学試験委員会

委員長：石垣和子 教授（学長）

委員：小林教授、長谷川教授、川島教授、吉田教授、村井教授、林教授、中村事務局長

開催頻度：8 回開催

活動内容：

1. 各入学試験の募集、実施準備、当日運営、合格発表にいたる一連の事務作業を円滑に行うこと。その流れの中に、入試実施部会（新設）の役割を位置づけること。また、実施体制において教務学生課等の事務職員との協働を強めること。
  - 1) 入試実施体制案作成及び当日運営は入試実施部会の役割、入学者選抜要項作成・募集要項作成・合格発表は本委員会の役割として定着し、委員会の開催回数が減少した。
  - 2) 入試実施部会の組み立てにより事務職員との協働体制が強められた。
  - 3) 入試評価部会からのフィードバックを得て、スムーズに実施できた。
2. 各入学試験の試験問題の作成と試験問題の適切な管理。
  - 1) アドミッションポリシーに照らした作問基準を新規に作成。基準に則った作問を実現。
  - 2) 試験問題の管理は従来の方法で確実に行った。
  - 3) 作問プロセス、採点プロセスにおけるチェック体制について検討した。
3. 学生募集に関する活動
  - 1) 高等学校等への入試説明会、模擬授業等を円滑に分担するシステムとして、小講座持ち回りでの説明会等対応の徹底を行った。
  - 2) 上記により可能な限りすべての要望・申し込みに対応できた。
  - 3) 7月開催のオープンキャンパスに加え、10月学園祭と同時に行ったオープンキャンパスへの協力も行った。
4. 入試情報のホームページ上での公開と管理
  - 1) HP にて入試情報の公開と管理を行った。
5. 入試方法と入学者の特徴との関連に関する調査（入試評価部会）
  - 1) 入試評価部会より2年間に亘る調査結果報告があり、現状を認識できた。入試方法をめぐ

る動きの活発化している社会情勢を受けてさらに評価のための調査を継続する。

#### 6. 平成25年度に行った入学試験実績(実施順)

平成25年9月7日(土)	3年次編入学試験
平成25年9月28日(土)	看護学研究科博士前期課程入学試験
平成25年11月23日(土)	推薦・社会人入学試験
平成26年1月18日(土)・19日(日)	大学入試センター試験
平成26年2月1日(土)	看護学研究科博士後期課程入学試験 看護学研究科博士前期課程(第2次募集)入学試験
平成26年2月25日(火)	一般選抜前期日程試験
平成26年3月12日(水)	一般選抜後期日程試験

### 3.10.1 入試実施部会

部会長：非公開

委員：非公開

開催頻度：7回開催

活動内容：看護学部入学試験の準備・実施体制およびそれに付随する業務

研究科入学試験の準備・実施体制およびそれに付随する業務

大学入試センター試験の会場準備・実施体制およびそれに付随する業務

### 3.10.2 入試評価部会

部会長：非公開

部会員：非公開

開催頻度：7回開催(メール会議含む)

活動内容：以下について検討した

- ・平成26年度3年次編入学筆記試験変更に伴い継続的情報蓄積項目に関する事
- ・全国国公立大学、近隣大学における3年次編入学試験に関する事
- ・推薦入学試験における入学者数、入学後の状況及び資格取得状況に関する事
- ・平成27年度以降大学入試センター試験における理科科目採用状況に関する事

### 3.11 FD/自己点検・評価委員会

委員長：石垣和子 教授(学長)

委員：浅見教授、武山教授、大木教授、川島教授、丸岡教授、西村教授、村井教授、  
高山教授、林教授、青山総務課長

事務局：山崎主任主事

開催頻度：原則隔月開催 計4回開催

活動内容：

#### 1. 委員会体制について

この委員会は、3部会(教員評価検討専門部会、年報/自己点検評価専門部会、FD/授業評価専門部会)を持つため、部会からの報告、部会へのアドバイス等が委員会ごとに毎



回やり取りされた。

## 2. 7年ごとの認証評価・本学独自の経年評価について

大学基準協会による認証評価は平成24年度に受けたため、次回の認証評価までには数年の余裕がある。この間に経年的に自己点検評価することについて検討を開始した。(平成26年度に継続する)

## 3. 教員評価について

前年度に続き、教員評価検討専門部会案によって、教員個別の目標シートを用いた自己評価を行った。これを第3者が評価するための評価委員を選定し、評価委員による教員個人評価の試行を行った。さらに評価委員を評価する第2段階目の評価を施行する予定である。(平成26年度に継続する)

## 4. 授業評価について

FD/授業評価専門部会において改善された評価項目を用いた授業評価を実施した。その後、部会から評価結果の公表に関する相談があり、意見交換を行った。結論は得られず、次年度へ継続して検討する。

## 5. FDについて

大学コンソーシアム石川のFD研修を利用したFD研修を行った。

## 6. 新任教職員のFD・SD研修について

FD/授業評価専門部会から新任教職員のFD・SD研修の提案があり、平成25年度はじめに研修を行った。

## 7. 年報の作成について

年報/自己点検評価専門部会による年報作成を進めている。

### 3.11.1 教員評価検討専門部会

部会長：武山雅志 教授

部会員：多久和教授、林教授、村井教授、山岸准教授

開催頻度：随時

活動内容：

1. 教員評価委員の選任。
2. 教員評価委員への平成24年度振り返りシート、平成25年度目標シート、年報ファイルの提出。
3. 教員評価委員による適切度評価実施および面接に関するアンケート実施。
4. 教員評価委員への平成25年度振り返りシート、平成26年度目標シート、年報ファイルの提出。
5. 教員評価委員研修会(3月13日、講師：中村事務局長「面接の心得」)
6. 教員評価委員による面接実施。

### 3.11.2 年報・自己点検評価部会

部会長：大木秀一 教授

部会員：松原教授、丸岡教授、米田講師、岩城講師、川村講師、田村助教、川端助教

事務局：山崎主任主事

開催頻度：全体の部会は1回開催した。分担業務ごとの打ち合わせ会を随時開催した。

活動内容：

1. 年報の発行

平成 24 年度石川県立看護大学『年報』第 13 巻を平成 25 年 10 月に発行した。内容は、学事、教員・職員紹介、委員会活動、研究活動・社会活動、卒業研究論文題目及び修士・博士論文題目一覧、石川看護雑誌、附属図書館、地域ケア総合センター事業報告、北陸がんプロフェッショナル養成プログラム、国際看護プログラム 夏期アメリカ看護研修、ワシントン大学との交流、いしかわシティカレッジ、地域連携活動などで、100 頁になった。印刷部数は 400 部で、県内外の関係諸機関等に送付した。

2. 年報の原稿収集

平成 25 年度石川県立看護大学『年報』第 14 巻の原稿依頼と収集を行った(平成 26 年 2-3 月)。

3. その他、今後の本学の内部質保証・外部評価に向けての継続的な学内データの収集について検討を行った。

### 3.11.3 FD/授業評価専門部会

部会長：村井嘉子 教授

委員：小林教授、中田隆博准教授、谷本准教授、中田弘子講師、堅田講師、東助教、

開催頻度：4回開催（メール会議含む）

活動内容：

1. 大学コンソーシアム石川教職員研修への参加

テレビ会議システムを活用して、障がい学生支援に関する学習会の参加、大教室での効果的な授業方法、学生参加型授業の実践、学生の背中を押す取り組みへの挑戦などの 7 回の FD/SD 研修会に参加した。参加人数は、延べ 98 名であった。

2. 学内研修会の開催

- ・障がいのある学生支援について講師（富山大学保健管理センター准教授・学生支援センターアクセシビリティコミュニケーション支援室長 西村優紀美先生）を招聘し、障がい学生の大学生活の実態、課題、指導における留意点などについて講義を受け理解を深めた。参加者 57 名
- ・研究倫理審査に関する学習会を開催（倫理審査委員会共催）し、研究推進のための研究倫理審査における留意事項、学部卒業研究における付議不要に関することについて説明を受け理解を深めた。大学院生 6 名を含む 52 名参加
- ・学内研修会において、授業の工夫の実際として統合実習 A および B の実際について報告し意見交換した。参加者 40 名
- ・大学コンソーシアム石川及び大学行政管理学会中部・北陸地区研究会主催の大学経営人材養成合宿研修に青山総務課長が参加しその報告を行い、大学教職員の役割と期待について理解を深めた。参加者 40 名
- ・前年度の新人教職員オリエンテーション実施報告を行い、その成果と課題について意見交換し、次年度実施について方向性を得た。参加者 40 名

- ・平成 24～25 年に実施された『臨地実習指導力評価』結果を報告した。結果より、今後必要な具体的な研修が明らかになった。参加者 40 名
  - ・学外より講師（金沢大学大学教育開発・支援センター長、大学教育研究開発部門教授 西山宣昭先生）を招聘し、「批判的思考力の育成と評価」について講義を受けた。参加者 32 名
3. 学生による授業評価票に関する検討
- ・平成 24 年度に作成した授業評価票を使用して、学生による授業評価を全科目において実施した。
  - ・学生による授業評価結果の公開についてその方法、内容等、また、該当年度の授業評価結果に加えて次年度への対策を記載する等について意見交換された。今後の継続審議となった。
4. 新任教職員に対するオリエンテーションを実施
- ・新任教職員（教員 6 名、職員 8 名）に対して、4 月 1 および 2 日において実施した。1 日目は、組織・運営について、本学の理念、大学教職員としての責務、FD/SD 活動について、2 日目は、教育関連、研究関連、附属施設関連等について研修した。

### 3.12 ハラスメント委員会

委員長：石垣和子 教授（学長）

委員：浅見教授、長谷川教授、吉田教授、村井教授、中村事務局長

相談員：武山教授、今井教授、彦准教授、川村講師

活動内容：

1. ハラスメント研修会（平成 26 年 2 月 26 日）参加者 41 名  
「石川県立看護大学キャンパス・ハラスメントの防止等に関する規程」の変更についての説明を委員長より行った。ついで臨地実習場面における 3 つの事例に基づくグループワークを行い、どのような対応が望ましいのかをディスカッションした。最後に「看護学教育における倫理指針」を題材に強制的な力の働きやすい臨地実習において「学生一人ひとりが大切にされていると実感できる教育環境」の大切さを確認した。
2. ハラスメントの苦情に対応して、ハラスメント委員会を招集した。「ハラスメントにはあたらぬ」という結論が出たが、支援チームを立ち上げ支援にあたった。
3. 相談：随時

### 3.13 情報セキュリティ委員会

委員長：大木秀一 教授

委員：浅見教授、小林教授、今井教授、丸岡教授、西村教授、高山教授、川端助教  
松田主幹

開催頻度：随時

主な活動内容：

平成 25 年 8 月 2 日（金）に情報セキュリティ研修会を開催した。

石川県公立大学法人統一の情報セキュリティ委員会の活動に関わってきた。

### 3.14 コンプライアンス委員会

委員長：高山成子 教授

委員：中村事務局長、多久和教授、牧野教授、小林教授、織田准教授、久米臨時講師、  
松田主幹

開催頻度：随時（平成 25 年度は委員会を 3 回開催）

活動内容：

1. 4 月に平成 25 年度不正防止計画と、石川県立看護大学における研究者の行動規範と競争的資金等の取り扱い体系図を確認し、ホームページに掲載した。
2. 8 月に教員対象の平成 25 年度研究費不正防止の研修会を行い、昨年の研究費執行の調査結果を報告し、「行動規範」などの周知の徹底を図った（昨年同様に 38 人参加）。
3. 法人内部監査部門の研究費等内部監査（6 件）を受け、「概ね適正に執行・保管・管理されている」という結果報告を確認した。
4. 12 月に全教員に「公的研究費の不適切な経理に関する調査」を実施し、52 名の回答（回収率 100%）があった。「行動規範・不正防止計画」は認知率が昨年より増加したが、内部監査や相談窓口の仕組みの認知は 80%と低く、研修の継続の必要性が示唆された。
5. 3 月の文科省主催の事務職員対象の研究費不正防止推進の研修に松田事務官が出席した。まとめとして、公的研究費の不正使用が依然として発生している現状に基づき、2 月に文部科学省がガイドラインの改正を実施し、さらなる不正防止計画の取り組みが強化されるなかでコンプライアンス委員会による地道な啓蒙活動、システムづくりの重要性を委員会で確認した。

### 3.15 遺伝子組換え実験等安全委員会

委員長：中田隆博 准教授

委員：高山教授、長谷川教授、小林教授、中田弘子講師、入道教務学生課長

開催頻度：随時

活動内容：

本年度の申請件数は 2 件であった。申請内容はメール会議により各委員に周知された。申請案件は機関届出実験に相当し、委員会による審査は不要であった。

### 3.16 大学院教務・学生委員会

委員長：高山成子 教授（研究科長）

委員：丸岡教授、浅見教授、吉田教授、西村教授、牧野教授、大木教授  
入道教務学生課長 井ノ山事務員

開催：定例月 1 回（第 4 火曜日）及び臨時会議

主な活動内容：

1. 大学院教務に関する以下の事項について審議・実施し、必要事項は研究科委員会に提出し、承認を得て教務を行った。
  - ・ 新入生および在校生へのガイダンス
  - ・ 修士論文・博士論文に関し、修士（9名）の中間評価委員・博士論文（1名）の予備審査委員決定、修士中間報告会（9名発表.参加者48名）、修士論文発表会（8名発表.参加者54名）、博士中間報告会実施（2名発表.48名参加）を行った。
  - ・ 既修得単位、14条学生、長期履修生、科目等履修生、研究生、休学・復学の認定
  - ・ 前期・後期成績判定、学位授与・修了判定を行った。
  - ・ 非常勤講師、院内講義担当者の、実習施設に関する事項の申請を受けて検討した。
  - ・ 時間割の作成、大学院便覧の作成を実施した。
2. 長期履修生支援対策の一環として、昨年実施した3名の看護部長のインタビュー結果を受けて、今後は14条の院生の意見を聞くことの必要性が確認された。
3. 「院生との懇談会（9月、2月）」開催、「意見箱」設置など院生のニーズの把握に努め、おたぽろ設置による連絡徹底、必要物品購入、早期の時間割作成など対応をした。
4. 専門看護師の受験・実習場所拡大を目的に、昨年につき2回目の「北陸3県看護部長との懇談会」を実施し、13名の看護部長の参加のもとに意見交換をした。
5. 修了生の授業・教員評価調査を9月に実施し、20名（80%回収率）の回答を得て評価結果をまとめた。概ね良い評価であった。
6. 専門看護師38単位カリキュラム申請に対応し、特別研究のあり方など検討を行った。
7. 院生の学びを深める目的で、院教務・学生委員会共催の特別講演会として、11月にキャリアセンター独立記念のルイス教授講演、3月に真田先生特別講演を共催で開催した。また、倫理研修会も共催で開催し、院生が述べ14名参加した。

### 3.17 倫理委員会

平成25年度実施内容

委員長：高山成子 教授（研究科長）

委員：武山教授、丸岡教授、吉田教授、中田准教授、北山准教授、外部委員

事務局：気谷専門員

開催頻度：定例月1回（毎月第4木曜日）。8月は開催し、12月は開催しなかった。

活動内容：

1. 平成25年度は学長が委嘱する学識経験者として9名の外部委員の参加を得て、計11回の委員会を行った（1回の委員会に2名の外部委員が出席）。
2. 審査数増加による外部委員の負担などの理由から迅速審査について討議してきたが、卒業研究のみに「付議不要」制度を適用することとなった。6～9月まで17件の付議不要確認を行い、また8月開催をした結果、平成25年度審査数は最高14件（去年は最高20件）に減少した。
3. 平成25年度は、先述した付議不要の申請の説明の必要性と倫理審査の理解促進を目的に、6月に初めて第1回倫理研修会を開催し、参加者数は53名であった。3月には第2回倫理研修会、申請記入方法などの周知を目的に実施し、参加者数は38名で、研修後の申請内容において、著大な改善が見られた。

4. 平成25年度の申請数（付議不要を含む）は、教員20件、前期課程生12件、後期課程生4件、卒業論文14件、付議不要申請15件（2件は倫理審査へ移行した）で合計65件であった（昨年63件）。審査の結果は、承認60%（昨年38%）、条件付き承認34%（昨年54%）、変更の勧告6%（8%）で、昨年より承認の割合が増加した。

### 3.18 がんプロ企画委員会

委員長：牧野智恵 教授

委員：高山教授、林教授、多久和教授、松原教授、岩城講師  
入道教務学生課長、松田主幹、宮崎特任助教

開催頻度：定例隔月開催（第1水曜日）計7回、メール会議 3回

活動内容：

1. 「北陸高度がんプロチーム養成基盤推進プラン」推進に関する企画および実施
  - 1) 「がん教育改革」に関して、本科生の北陸がんプロ e-learning の単位認定および、全国 e クラウドへの参加に関する検討
  - 2) 「地域がん医療（インテンシブ）」に関して
    - ①『地域がん看護師養成コースⅠ』（大学院科目等履修）の募集要項の検討・学生募集および広報
    - ②『地域がん看護師養成コースⅡ』（修了証取得）の募集要項の検討・学生募集・成績判定・修了証の発行
    - ③『再就業に向けたがん看護実践サポート』の募集要項の検討・学生募集・成績判定・修了証の発行
  - 3) テレビ会議システムを用いた「がん看護事例検討会」の企画、運営（8回/年開催）  
今年度はがん看護専門看護師のスキルアップのためのがん看護事例検討会の企画・実施（2回/年）
  - 4) 「リンパ浮腫ケア」の企画・実施・修了証発行
  - 5) 「がん看護における臨床倫理事例検討会」の企画・実施・修了証発行
  - 6) 「放射線と健康」の公開講座の企画
  - 7) 「英国視察研修」への参加
  - 8) 平成25年度の「北陸高度がんプロチーム養成基盤推進プラン」の評価及び平成26年度企画内容の検討
2. 北陸がんプロ本科生の単位取得状況の承認
3. テレビ会議システム利用によるキャンサーボードの推進
4. 「平成24年度北陸がんプロ報告書」の作成
5. がん看護関連学会および全国がんプロ運営会議への出席

#### 3.18.1 がんプロ運営委員会

委員長：牧野智恵 教授

委員：岩城講師、木森助教、川端助教、中田助教  
松田主幹、宮崎特任助教

開催頻度：定例隔月開催（第1水曜日）計6回開催、

活動内容：

1. 「北陸高度がんプロチーム養成基盤推進プラン」の実施
  - 1) テレビ会議システムを用いた「がん看護事例検討会」の企画・運営・アンケート集計（8回/年開催）

- 2) 「リンパ浮腫ケア」の企画・実施・アンケート集計
  - 3) 「がん看護における臨床倫理事例検討会」の企画・実施・アンケート集計
  - 4) 「放射線と健康」の公開講座の開催
  - 5) キャンサーボードへの参加広報
2. 「平成24年度北陸がんプロ報告書」の編集
  3. がん看護関連学会への参加および報告

### 3.19 衛生委員会

委員長：大木秀一 教授

委員：今井教授、西村教授、阿部准教授、中嶋助手、中村局長、清水専門員、奥村囑託、  
茶谷産業医

開催頻度：年度内に計6回開催

主な活動内容：

1. 職場巡視の実施（平成25年7月4日・平成25年11月28日・平成26年3月27日）・改善指導
2. 労働時間に関する実態調査の実施（平成25年7月）・報告・パンフレットの作成、配布
3. 消防訓練の計画・実施（平成25年7月17日）
4. 労働安全衛生研修会の実施（平成25年12月5日）
5. 「職場のメンタルヘルスに関するアンケート」の実施（平成26年1月）・報告
6. 定期健康診断の結果集計・受診率向上の検討